



冬の御嶽山  
秋の御嶽山

**御嶽山全域図凡例**

△	山頂(山岳名)
—	登山道
—	道路(路線番号)
—	川・沢(川名)
○	登山道ポスト
□	山小屋等
!	危険情報
!	注意喚起情報
!	火口域からの距離標識

### 余裕をもった計画をたてよう

- 山登りは朝から始め、明るいうちに下山するのが鉄則です。
- 天候が悪い、体調がすぐれないなど悪条件のときには無理に登らず、またの機会を待ちましょう。

### 出発前の準備に必要な装備

- 登山は登山者の自己責任が原則です。事前にルートや天候、危険箇所、避難施設についてよく調べ、ヘルメット等装備を整えてから登山しましょう。

<input type="checkbox"/> ヘルメット	<input type="checkbox"/> 飲み物	<input type="checkbox"/> 雨具・防寒具
<input type="checkbox"/> ヘッドランプ	<input type="checkbox"/> 非常食	<input type="checkbox"/> 帽子
<input type="checkbox"/> グローブ	<input type="checkbox"/> 救急用品	<input type="checkbox"/> 手袋
<input type="checkbox"/> 地図	<input type="checkbox"/> 緊急連絡票	<input type="checkbox"/> ホイッスル
<input type="checkbox"/> コンパス	<input type="checkbox"/> 無線もしくは携帯電話	<input type="checkbox"/> 携帯トイレ
<input type="checkbox"/> 自分の名前や連絡先がわかる物	<input type="checkbox"/> 携帯電話予備/バッテリー	<input type="checkbox"/> 熊鈴

**持ち物チェックシート**

### 登山届を必ず提出しよう

- 登山届ポストや県、警察署などで提出しましょう。
- 登山届提出はアプリ(コンパス、YAMAP)が便利です。裏面に各アプリのQRコードを掲載しています。

### 山の中の危険に注意

- 山の中にはさまざまな危険なところがあります。登山道から外れないよう注意しましょう。また、登山道であっても落石、倒木、スズメバチやマムシなどの危険が潜んでいます。
- 熊の出でか増えています。熊鈴を携帯する等、対策しましょう。

### スズメバチに出会ったら

ハチを刺激しないように通りましょう。カチカチと音を立てて何匹も飛んできるときは近くに巣がある可能性があります。すみやかに引き返し立ち去りましょう。

### 気温や天候の変化

- 山岳地域では、急激に気温が下がる場合や天気予報で予測されない天候の変化があります。雲の様子や気温の変化、雷、風、視界などに注意しましょう。

### 急な増水

- 降雨時に河川や沢が急激に増水し、急激に水位が上昇するおそれがありますので、注意しましょう。

### 噴火や火山ガスに注意

- 何の前ぶれもなく噴火する可能性もありますので、常に火口付近の様子に気を付けましょう。
- 火山ガスは窪地や谷などに溜まっていることがありますので、絶対に立ち入らないでください。

### 御嶽山県立自然公園

御嶽山県立自然公園は、最高峰の剣ヶ峰(3,067m)、摩利支天(2,959m)、縷子岳(2,859m)などがあります。頂上周辺には、一ノ池から五ノ池の5つの火口湖があり、エメラルド色の水をたたえ、また、山頂から瀧河温泉周辺にかけては亜高山帯～高山帯の典型的な垂直森林帯を形成しています。御嶽山は古くから信仰の山として崇拝されており、御嶽講と呼ばれる信仰の登山参拝も見られるほか、山岳信仰と民間信仰は古くから密接に関係しており、山麓には多くの薬草が生息していたため、多くの開業薬があり、百草丸として親しまれています。

### 自然公園の利用上のマナー

自然公園内では自然を大切にすることを心がけ、次のことを守りましょう。

- 登山道からはずれないでください。
- 植物や動物をとらぬでください。
- 野生動物本来の生態を守るため、餌を与えないでください。
- 入山前にトイレを済ませ、道中は携帯トイレの利用も考えましょう。

### 火山登山者向けの情報提供ページ

自然公園の多くには、活火山が含まれています。御嶽山は活火山であることに留意し、正しい知識を持つことが大切です。登山前には、最新の噴火警報レベルや火山情報を確認しましょう。

### 御嶽山の活動状況

QRコード

URL: [https://www.data.jma.go.jp/svdt/vois/data/tokyo/STOCK/actively\\_info/312.html](https://www.data.jma.go.jp/svdt/vois/data/tokyo/STOCK/actively_info/312.html)

### 御嶽山の火山観測データ

QRコード

URL: <https://www.data.jma.go.jp/svdt/vois/data/tokyo/open-data/open-data.php?id=312>

### 過去1万年間の噴火活動

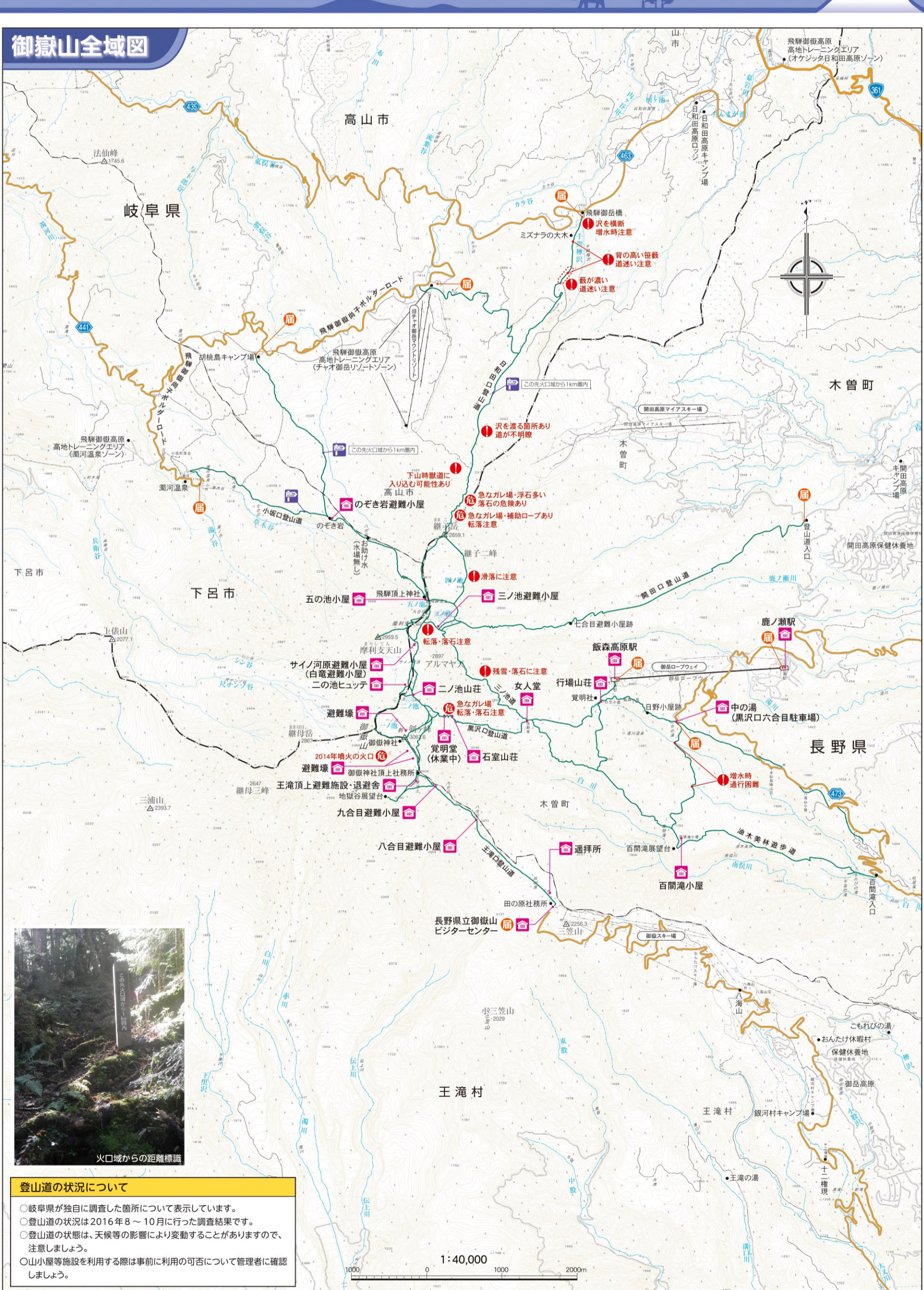
最近2万年間は、水蒸気噴火などの新鮮なマグマを放出しない活動のみと考えられていたが、最近の研究では、過去1万年間に4回のマグマ噴火が発生していることが明らかにされている。また、水蒸気噴火は数百年に1回の割合で、堆積物として残る規模のものが発生している。1979年噴火以前の歴史記録に残る噴火は発見されていないが、山頂西側の御嶽谷における噴火活動は、最近数百年間は継続している。

### 有史以降の主な火山活動

噴火年代	現象	活動経過・被害状況
1978~79(昭和53~54)年	地震	5月~7月、王滝村付近で群発。活動のピークは1978年10月。最大地震は10月7日05:44M5.3。
▲1979(昭和54)年	水蒸気噴火(中規模)	10月28日早朝、火砕物降下。噴火場所は剣ヶ峰(主峰)南斜面火口湖。昨夜におさる。前降付近まで降灰。山麓で農作物被害。噴出物の総量は約2000トン。
1984(昭和59)年	地震(山岳崩壊)	9月14日、岩崩(御嶽谷)。場所は御嶽山南南東斜面。[昭和59(1984)年]長野県西部地震(M6.8)。御嶽山頂のやや南西に生じた山崩れは約10km落下して、王滝川に約2000トン程度の規模で崩壊。死者29名、住宅全壊87棟等。地震活動は数年後にほぼ収まった。
▲1991(平成3)年	水蒸気噴火(ごく小規模)	5月13~16日の間、噴火場所は1979年噴火火口。4月20日山頂直下で地震発生。以後6月まで時々地震発生。4月27日~6月地震発生。特に5月12~16日地震発生。5月20日の現地調査で、1979年噴火の火口から火砕物を噴出した跡を確認。第7火口はこれまで噴火もなかった。
2006(平成18)年	地震変動、地震、火山性振動	12月中旬、わずかな山岳変動が始まる。12月下旬、山頂直下で火山性地震発生。火山性地震発生以降、2007年3月まで断層を繰り返しながら継続。
▲2007(平成19)年	水蒸気噴火	1~3月、噴火場所は79火口。1月16~17日火山性地震増加。3月16日噴火量増加(三岳崩壊の遠征カメラで山頂部に少量の噴火を推察)。以降、ごく少量の噴火が時々認められる。5月22日現地調査で、79火口北東斜面約200mの範囲に79火口から噴出した火砕物を確認(噴火発生日は不明)。地震波等の研究から、御嶽山直下のマグマ貫入(深さ4kmまで上昇)に伴って山頂直下の地震が発生。
▲2014(平成26)年	水蒸気噴火	9月27日11時52分噴火。噴火場所は御嶽山南西斜面の火口湖。大きな噴石が火口湖から約1kmの距離に飛散。火砕流が火口湖から南西方向に約2.5km、北西方向に約1.5kmまで落下。噴火後、二酸化硫黄の総量は1日あたり約500~1500トンと観測。死者・行方不明者あわせて63名。
2022(令和4)年	地震変動、地震、火山性振動	2月23日14時15分頃から火山性地震が増加。14時19分頃に火山性地震とともに、山頂付近に設置された二ノ池北斜面に設置した観測点が確認する変化が見られ、16時35分に噴火警報レベル2(火口周辺警戒)に引き上げ。令和4年6月23日に噴火警報レベル1(活火山であることに留意)に引き上げ。

※気象庁ホームページより ▲は噴火を示す。

## 御嶽山全域図



岐阜県 高山市 木曽町 下呂市 長野県 王滝村

御嶽山全域図は、岐阜県高山市から長野県王滝村にかけての御嶽山地域を詳細に示しています。登山道、避難小屋、温泉、キャンプ場などの主要な施設や危険箇所が明確に示されています。また、2014年噴火の火口や、2022年の地震活動の震源域も記載されています。

**登山道の状況について**

- 岐阜県が独自に調査した箇所について表示しています。
- 登山道の状況は2016年8~10月に行った調査結果です。
- 登山道の状況は、天候等の影響により変動することがありますので、注意しましょう。
- 山小屋等施設を利用する際は事前に利用の可否について管理者に確認しましょう。

1:40,000

©この地図の作成に当たっては、国土院理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図25000を使用した。(承認番号 平28情第 第968号)

調製: 東海図版株式会社

### 観光情報

御嶽山自然休養林 胡枝島キャンプ場

標高1,850メートルの高所にある胡枝島キャンプ場。目前に雄大な御嶽山がそびえ、森林浴、バーベキュー、美しい紅葉など、四季折々の魅力がダイナミックに満喫できます。充実した設備の整ったコテージも7棟あります。

日和田高原ロッジ・キャンプ場

御嶽山の麓、日和田に囲まれたキャンプ場。さわやかな夏のキャンプはもとより、高地トレーニング施設も充実しており、宿泊などにも利用できます。

塩沢温泉七峰館

山奥の温泉街、そんな言葉がぴったりくる七峰館。飛騨川のせせらぎと、あじろの木々に包まれた温泉旅館です。(泉質: 含二酸化炭素、ナトリウム・カルシウム、炭酸水素塩温泉)

下呂市 御嶽山の山小屋

御嶽山 飛騨頂上「五の池小屋」

瀧河温泉登山口から約3時間45分かけて御嶽山に登ると、飛騨頂上(標高2,811m)に到着。飛騨頂上には360度のパノラマで、空気が澄んだ日には富士山や白山が一直線上に見える絶景スポットです。

二の池ヒュッテ

2018年に二の池ヒュッテとしてリニューアルオープンしました。飛騨頂上から45分、剣ヶ峰から20分、御嶽山の真ん中に位置します。御嶽山北側の緑と南側の火山、両方の魅力を堪能できる場所です。

下呂市 瀧河温泉

瀧河温泉 市営露天風呂

御嶽山の山麓に位置する瀧河温泉にある市営露天風呂。男女別に開放的な大きな浴槽があり、泉質は炭酸水素泉。神経痛や動脈硬化症、高血圧症などに効果があります。この泉質、湯治を求めて遠方から瀧河温泉を訪れる方が多くあります。また、登山者の下山後のリフレッシュとしても大変人気です。

小坂の滝めぐり

小坂町には5m以上の滝が200箇所以上あり、その多くは御嶽山の噴火による溶岩によって作られています。春は新緑の息吹を感じ、夏は五体を涼しく、秋は赤や黄色に染まるふわふわの大地を踏み、冬はかんじきで凍った滝めぐりなど四季折々にお楽しみいただけます。